



今号の内容は・・・

## ★第23回研究大会報告

- ・ 記念講演 演題 『学校経営における学校事務職員の役割』  
講師 相模女子大学 非常勤講師 長谷川 邦義 様
- ・ 研究発表1 『これまでの共同実施とこれからの展望』  
大阪府公立学校事務研究会研究部
- ・ 研究発表2 『未来につなげる学校事務を』  
守口市教育研究会 事務部会  
『学校・家庭・地域一つながる意味とは？』  
寝屋川市中学校区事務連携推進校

## ★ステップアップ研修講座報告

.....

## 第23回大阪府公立学校事務研究大会開催



## 開会行事

平成26年11月14日、エルおおさかにて『明日の教育を担う学校事務を創造しよう』を大会テーマに、第23回大阪府公立学校事務研究大会を開催しました。細野会長の挨拶のあと、来賓挨拶、来賓紹介があり、開会行事を終了しました。

# 記念講演

テーマ 『学校経営における学校事務職員の役割』

講師 長谷川 邦義 様 (相模女子大学 非常勤講師)

長谷川様は、今回の講演のサブテーマを「教育活動の活性化に貢献する学校事務」とし、「教育活動の活性化に貢献することこそが、学校事務職員の職を守り、展望を切り開くことができる唯一の道だ」と強調されました。

次に、平成10年中教審答申を境に、全教職員による学校経営参画が求められるようになった経緯を説明され、「学校事務職員の経営参画とは単に『この仕事が参画だ』という固定的なものではなく、校長の意思決定のプロセスに、事務職員がどれだけ関わっていけるかと考えた方が現実的ではないか。ベテランの事務職員でなければ参画できないなんてことはない。必要な情報を提供できればいい。自分の意見が言えたらいい」と若手事務職員へエールを送られました。

さらに、これからの学校事務職員の役割として「定型的業務から創造的業務への転換に挑戦することが必要。教育活動の充実と活性化にいかに関与するか。自分の学校の現状をしっかりと見て、どこに課題があるのか自分で探るのが大事」と述べられ、「創造的業務」実現に向けて以下の3つの提案をされました。

①教育課程（教育活動）を学校事務職員として認識する。

…年間指導計画を見るだけでも、やりたいことが見えてくる。

②学校事務職員として授業参観・教育活動に参画する。

…教員に支援の意思を伝え、財務や情報提供、施設設備、危機管理などの面から「学びの質の向上」に寄与。

③<セカンドステージ>にふさわしい関係性を学校事務職員として構築する。

最後に、共同実施や学校間連携の中で「組織人感覚」を持ち、リーダーシップとフォロワーシップを高めることが重要で、そのためには学校事務職員研修の大幅な見直しが急務であること、学校事務連携組織と管理職・教育委員会で連携して業務改善に取り組むことを提案され、「自分の研修課題を明確にして日常業務に取り組んでほしい」と締めくくられました。(総務部 石野)



# 研究発表

テーマ 『これまでの共同実施とこれからの展望』

～マップでみる大阪の共同実施～

大阪府公立学校事務研究会研究部



大阪府で共同実施が始まってから15年の節目を迎えた今、大阪府の共同実施の現状を確認し、その発展に向けて検討をしていくために、各市町村教育委員会へのアンケートを基にして考察し、発表を行いました。

学校事務の共同実施については、平成10年9月の第16期中央教育審議会答申においてもその必要性が提案されています。

今回の共同実施の研究にあたって、研究部は平成25年度に各市町村教育委員会に対してアンケートを行っています。教育委員会を対象とした理由については、共同実施を進めていくには教育委員会との連携・協力は必要不可欠であること。また、教育委員会が共同実施をどのように捉えているのか、及び、教育委員会が共同実施に期待するものは何かということを確認することが、共同実施を進めているうえで重要と考えたからです。

調査結果をマップにまとめると、全市的に実施しているところもあれば、一部の小中学校のみで実施しているところもあります。全体的な傾向としては、今後共同実施を行うことを検討している自治体が多く、共同実施の制度化が進んでいくことも期待されます。

共同実施を展開するにあたって、事務職員自身が、共同実施をとおして何をしたいのか、どのように学校運営に関わっていくのか、ということをしつかりと意識して取り組んでいくことが大切になります。前半の発表に続き、①各地で行われている共同実施 ②今後の共同実施の方向性 の2点を討議の柱として意見交換を行いました。

貝塚市からは、共同実施が始まってから現在に至るまでの取り組みの過程について詳細な報告がありました。東大阪市からは、「平成20年度より一部の地域で実施している。世代交代が進む中で、現状を打破し、学校事務を組織化することをめざして取り組みを進めている」と報告がありました。豊中市からは、「事務連携から共同実施に進み、現在2年目である。狙いは人材育成であるが、グループ内で温度差があることが課題である。また、管理職や教職員の理解が進んでいないことも課題となっている。事務職員は、共同での作業に慣れていないためグループワークのスキルが必要ではないか」と報告がありました。

私自身、共同実施に取り組んだことはありませんが、中学校区内での事務連絡会を行っています。そこでは、認定をはじめとした事務に関する相談や、児童・生徒情報の交換を行っています。プチ共同実施ともいえる取り組みだとは思いますが、その先に進んでいくことができていません。やはり、教育委員会が主導して共同実施を進める体制づくりをしていく必要があるように感じます。15年経った後に、共同実施について考察した時には、どんな結果になっているのか。事務職員が、学校事務職員として学校運営に欠かせない存在として職を確立している。理想論ではなく、そんな未来に向かって日々取り組みを進めていく必要があると感じた研究発表でした。

(総務部 原田)

## 研究発表2



- 『未来につなげる学校事務を』  
～守口市の教育研究会活動と共同実施～  
(守口市教育研究会事務部会)
- 『学校・家庭・地域一つながる意味とは?』  
～地域にささえられる学校となるために～  
(寝屋川市中学校区事務連携推進校)

今回は、2つの研究団体からの発表がありました。

1つ目は守口市教育研究会事務部会(守教研)からの発表です。プレゼンテーション画面には守口市教育委員会のキャラクター「もりりん」が登場し、様々な表情で目を楽しませてくれました。前半は守教研のあゆみと現在の活動内容について、後半は中学校ブロックにおける共同実施の報告でした。共同実施については若手職員、中堅職員それぞれからの感想がありました。学校の統合が進む中、共同実施・支援センターとの連携は今後より重要になっていくと感じさせられました。

2つ目は寝屋川市中学校区事務連携推進校からの発表です。3つの中学校区から共同実施についての報告がありました。寝屋川市の各中学校区に「香里園元気学園」「寝屋鉢かづき学園」などのユニークな名前が付けられており、興味をひかれました。校区ごとの取り組みとしてSMM(学納金管理システム)の導入や、安全マップの作成などそれぞれが工夫をこらし特長がありました。連携の発端である「地域と学校の橋渡しをしたい」という強い思いが感じられる発表でした。

私が勤務する市では現在共同実施は行われていませんが、共同実施の利点や、様々な取り組みがよくわかり、今後の参考にしたいと思いました。

(総務部 増山)





# ステップアップ研修講座

10/21(火)アウィーナ大阪にて採用2年目の事務職員を対象にステップアップ研修講座を開催しました。

前半は、10名の参加者が2つのグループに分かれてコミュニケーションスキル研修を行いました。

まずニックネームを決め、質問に漢字1文字で答え、その漢字を選んだ理由をグループ内で交流しました。

第1問「自分を漢字一文字で表すなら？」

第2問「今年の思い出を漢字一文字で表すなら？」

第3問「学校事務職員を漢字一文字で表すなら？」

という質問でした。それぞれ1文字の漢字から会話が盛り上がり、交流が進んでいました。また、第3問に対する答えでは、「多」「確」「潤」「雑」「動」など、参加者の気持ちがこもった文字が並んでいました。

後半は、「未来予想図をつくってみよう」というテーマで、研修部員が各グループに入り、グループワークを行いました。

まず、自分の「強み」と「弱み」を付箋に記入し、シートに貼ってグループで1つの表にまとめ、その後内容について意見交流しました。

次に「10年先にどんな事務職員になりたいか」という目標を、キャッチフレーズとタイムスケジュールとともに「自己実現シート」に記入し、内容についてグループ交流をしました。そして、「自己実現シート」の最後に、「10年後の自分へのメッセージ」を漢字1文字とともに記入し、意見交流をしました。グループ交流後は、他のグループの「自己実現シート」を見て回りました。

最後に、澤田研修部長が「理想とする自分になるためには自分を知らなければならない。自己実現シートを保管して10年後に見直してください」と締めくくりました。(総務部 谷岡)

自己実現シート	
～未来予想図をつくってみよう～	
所属( )	
名前( )	
ニックネーム( )	
会10年後のキーワード	
私は10年後に	
	事務職員になっています
会キャッチフレーズ(サブタイトル)	
会タイムスケジュール	
年経	
年経	
年経	
年経	
年経	
年経	
年経	
年経	
年経	
年経	
会10年後の自分へのメッセージ	



## 編集後記

風がすっかり冷たくなり、立派に育った我が校の中庭の木々が葉を落とし始めました。

休み明けともなると焼き芋でもしたくなる程の量の落ち葉が積もります。

「今日の中庭の掃除はたいへんやなあ」と掃除当番の子どもたちに声をかけると「やりがいがあるよ」「ちりとり何回いっぱいにはできるか競争な」と思いがけず頼もしい言葉が返ってきて、楽しそうに落ち葉をせっせと集め始めるのです。その瞳はキラキラと輝き、見ているとこちらまでウキウキとした気分になり心が温まるよう。

なんでも自分の楽しいことに変えてしまう姿勢、行動力の高さには学ぶことばかりだなあとしみじみ感じながら、私もその競争に混ぜてもらうのでした。(mai)

